

## 1. 市町村の概要

◆人口：63,720人（平成30年1月現在）

◆小学校：13校，児童数2,970人 ◆中学校：8校，生徒数1,630人

※学校数，児童生徒数は平成30年5月1日現在

### ◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

秩父市立小・中学校の児童生徒は年々減少傾向にある。学校統合については，平成25年度には大滝小学校が隣接する荒川西小学校に統合し，翌年の平成26年度には大滝中学校が隣接する荒川中学校に統合している。

## 2. 研究タイトルと研究課題

### ◆研究タイトル

秩父市小規模校教育高度化推進プロジェクト  
～小中連携による学力向上を目指して～

### ◆研究課題

- (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策
  - ア 少人数であることを最大限生かした教育活動に関する研究
  - イ 創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のメリットを最大化させる先進的な方策
- (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策
  - ア 学校間ネットワークの構築
  - イ 社会教育と密接に連携した学校教育活動

## 3. 調査研究対象校の状況

### ◆調査研究対象校

秩父市立大田小学校（6学級，110人）

秩父市立大田中学校（3学級，44人）

### ◆調査研究対象校を存続することとした背景・理由

大田小学校，大田中学校は，児童生徒数の減少傾向が続いているが，歴史的，地理的要因等から再編の予定はない。

### ◆調査研究対象校における地域との連携の状況

コミュニティ・スクール制度（学校運営協議会）を導入し，地域住民や保護者の意見を取り入れ，地域と一体となった教育活動が展開されている。

### ◆児童生徒数を確保するための工夫

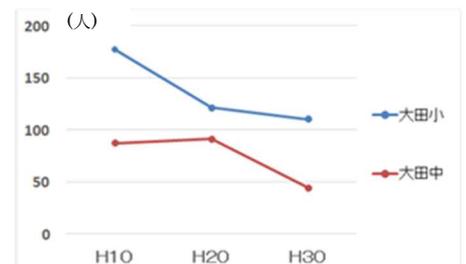
小規模校の特色を生かした取組として，小中連携，個に応じた指導，ICT機器の活用等による魅力ある教育活動の充実を図っている。

### ◆調査研究対象校の位置



大田小・中学校区は，豊かな自然に恵まれた田畑の多い静かな農村地帯である。

### ◆対象校の児童生徒数の推移



## 4. 本調査研究において取り組んだ内容

### ○小規模校のメリットを最大化する方策に関する取組

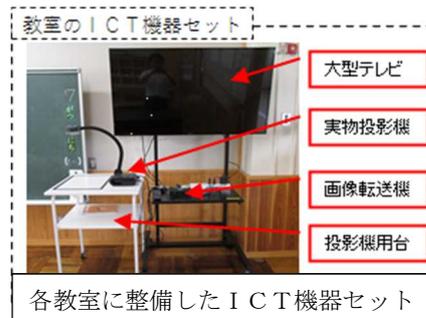
- ・児童生徒一人一人の実態を把握するためアンケートを実施し、右図の目指す児童生徒像についての個票を作成し、一人一人の特徴に応じた指導を実施した。
- ・タブレット端末を割り当て学習支援ソフトを活用し、朝自習や夏季休業中の補充学習等においてドリル学習を実施したり、家庭に持ち帰り家庭学習にも活用したりして、個別の学習に取り組み基礎学力の定着を図った。



社会科見学での活用



夏休み算数教室



### ○小規模校のデメリットを最小化する方策に関する取組

- ・小中連携による合同学校行事や地域と連携した諸活動の実施により児童生徒の連携交流を推進させ、一定規模の集団を確保し、多様な関わりを充実させ固定的な人間関係のデメリットを減少させた。
- ・全校集会や委員会発表等でのICT機器を活用したプレゼンテーションなどを教育活動の中に積極的に取り入れ、児童生徒の発表する機会を確保し、表現力やコミュニケーション能力の育成を図った。
- ・授業の中で学び合いのツールとしてICT機器を効果的に活用し、学び合いの質の向上を図った。



体育でのフォームの確認



委員会活動でのプレゼンテーション



学び合いの場面での活用

## 5. 研究の成果と今後の取組

学校と地域・家庭との連携、個に応じた指導による学力向上、ICT機器を活用した教育の高度化を取組の柱として研究を進めてきた。少人数ならではの個に応じた指導やICT機器の日常的な活用を推進してきた成果として、個人の学力の伸びを把握する県学力・学習状況調査においては、特に小学校6年生から中学校1年生にかけて学力を伸ばした生徒の割合が国語で75%、数学で95%を示し、県平均を大きく上回った。今後も研究の成果を地域等に発信し、地域とともにある学校教育を推進していきたい。

## 6. 学校の存続に課題を抱える自治体へのメッセージ

今後、多くの地域で少子化が進行し、児童生徒数が減少していくことが予想される。小規模校においては、その良さを最大限に生かした取組を一層充実させ、教育活動の質を向上させるとともに、その成果を学校の魅力として発信していくことが必要である。ICT機器を活用した教育の高度化や、地域の教育力を活用した教育活動を推進することにより、小規模校の強みを生かした魅力ある学校づくりを行っていくことが重要である。